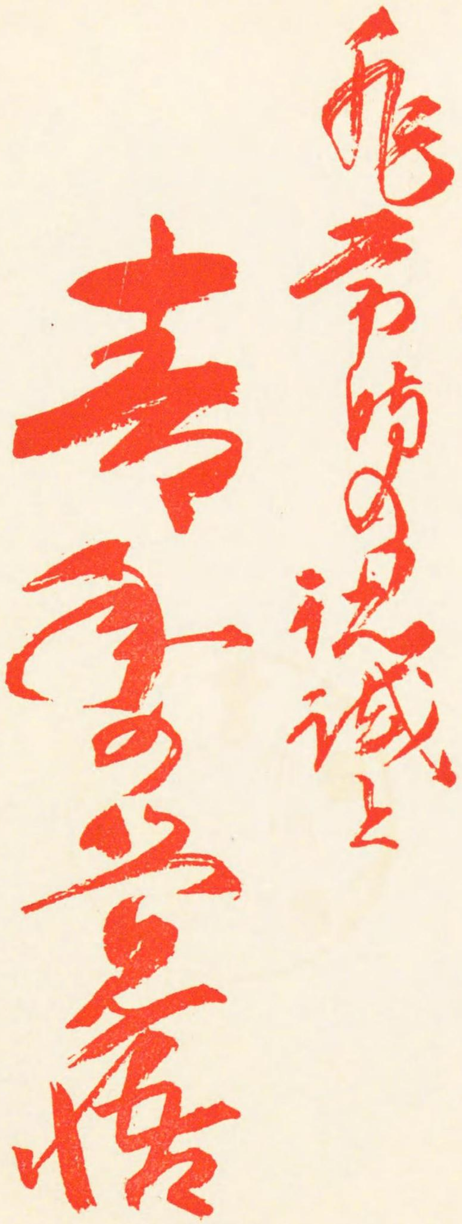
H81
31
00996129

大將臣
荒木貞夫著

所謂の視識と書の芸術

〔文明社〕



飛帯時の認識と

青年の覚悟

夫　貞　木　荒

H8/
31

國立國會
49.10.-3
圖書館藏書

996129

はしがき

闇雲に滿ちく〳〵た昭和八年はたゞならぬ空氣の中に暮れて、希望にかゞやく一九三四年が明け初める。而かも祖國日本の非常時は、年と共に月と共に、愈々その闇黑の色を深め行くばかりだ。腐朽せる經濟機構、墮落せる支配階級、その亡び行くべきものは、敢て國士の一擊を待たずして亡びる。問題は、如何にして舊きものを淸算するかではなくして、如何

にして新しきものを建設するかにある。外に向つては新興日本の、内にあつては革新日本の、中堅となつて動くべき現代青年の使命は、この意味に於て限りなく重い。

この時に當つて、今や内外時局の樞鍵を握る陸軍大臣荒木大將の青年に寄する言葉を社會に送り出すことを得たのは、小社の最も喜びとする所である。若しこの冊子を通じて、祖國熱愛の炬火が、大方青年諸君の胸奥に燃えひろがるならば、誠に望外の幸といはねばならぬ。

昭和八年十二月

楠間亀楠

非常時認識と

青年の覺悟

荒木貞夫

滿洲事變の眞因

私は嘗てある機會に於て、滿洲事變の發端が何處にあるか、唯徒らに我國の條約上の權益を保護するのであるとか、或は低級な生きんが爲の生命線の保護であるとか、又は國防の安固を期するが爲に、滿洲の平和を期しなければならぬとか、單に斯樣なことに依つて滿洲問題が起つて居るのではなく、又是が爲に進展して居るのでもなく、最終の目的が此處に

あるのでもないと云ふことを述べたことがありま
す。

多年の間極端なる唯物思想に侵蝕せられて、爛れきつた我が同胞は、物を觀るのに直に利害を考へ打算の上にのみ根據を置いて、或は強きに屈し、或は弱きを侮り、同胞亦互に斯様な觀念の下に鬪爭を續け來つたのであります。少くも表面には現はれないが裏面に於ては是等のものが非常なる鬪爭を續け來つたのであり、而もそれを是認して居つた所の我

國の一般大勢と云ふものは吾々同胞を驅つて悉く恰も禽獸に等しく生活の問題のみを考へる程度にまで墮落せしめ來つたのであります。

支那が日本を侮ると言つて憤慨を致しますが、それ以前に吾々自らが顧みて、果して吾々が隣邦支那人から嗤はるゝ程度でなかつたであらうかと云ふことも考へて見なければならなかつたのである、自ら侮つて、然る後に他が之を侮るのであります。顧みますると歐洲大戰以來殊に腐敗し來つた一般の

情勢に對し、此の儘では吾々の祖先以來傳へ來つて居りまする所の血が承知せぬ、又魂が承知せぬと云ふ處に迄到達し來つたと思ふのであります。「窮すれば通ずる」で、さう云ふ潛在の力、潛在の精神、それ等が茲に滿洲事變前の行詰まつた、極端な唯物的思想に對しまして、僅に滿洲の一角に起りました小事故に依つて、勃然として起つた。これが滿洲事變の抑もの原因であるのであります。

皇道精神の宣揚

茲に吾々同胞の輿論が期せずして日本と云ふものに對して、自覺をし、日本の精神に依つて起ち上り、皇道精神を宣揚する迄に沸立つた事が、此時局をして、到頭假令世界を擧げて恐喝を以て日本に臨みませうとも、或は利害を以て日本を誘惑しませうとも、動ずることなくして今日に到つた所以である。之を考へまするならば、吾々の血脈の間に流れて居つ

た所の祖先より繼承せし者が自然に茲に湧出したのであつて所謂天の啓示である。　卽ち我國の國體、之れに對する所の吾々同胞の意識、之を意識すると、意識せざるとを問はず、日本人の精神の間に遺つて居る所のものが所謂上は陛下の御稜威により、又神明の加護により、幾多の危機を見ながらも、兎も角も時局を今日迄押し進めた所以である。　天の啓示に從つて吾々が行くが儘に、日本人の進むが儘に進んで來た結果であると云ふことを斷言し得ると思ふのであります。　幸ひにして約二年の星霜、此の間可なり同胞の間に於ては議論もありましたし又幾多の紛糾も來したのでありましたが、大勢は動かすことを得ずして、今日凱歌を奏したとは申しませぬが、少くとも吾々の思ふやうに進みつゝあると云ふことが言へるであらうと思ふのであります。

等不思議はないのである。　吾々が行くが儘に自然に赴く所に隨つて進み來つたのであらうと思ふのであります。

宇宙の自然に従へ

どうも此頃は何んでも理窟を言はなければ、通らなくなつたやうであります。又理窟を言はなければ承知をしなくなつたのでありますが、私は假りに人間が少しばかりの智慧を以て如何に理窟を並べて見ました所で、宇宙の自然と云ふものは解し得ないのであらうと思ふのであります。

斯様の事を一生繰返して居つて、遂に自分の使命の何ものをも果さずして終るよりも、一歩進んで、宇宙の自然と云ふものを求めて、茲に自分の生れたる儘の此の自然を能く考へて此の儘に進むと云ふことによつて、始めて吾々が生を享けた時より持つて居た使命を果し得るのではないか。本能的に總てをやつたら宜いぢやないかと言ふが、本能が人間の總てゞはない。低級な本能、例へば食うてゆくと云ふことが人間の全本能でないのである。單に之れのみが本能と云ふなれば斯の如きは禽獣に等しき

ものと考へなければならぬと思ひます。吾々が何處迄も人間であり、日本人であると云ふことを考へて、日本人であると云ふことを自覺をし、少くとも日本國民であると云ふことを考へまして、道に進むことが自然である。此の自然の道により滿洲事變が起つて今日迄進んで來たのである。是が其の力であり、又さう考へた時に始めて吾々が市井の巷に立つて始めて其の使命を果すことが出來るのである。

天の使命に生きよ

要するに日本人として、日本國民として踏むべき道を踏むより以外に何もないのであります。理窟はありませう。吾々が日本人、日本國民として進んで行く以外に他の道を何の必要あつてか求め之に賴つて行き、又迷つて行くのでありませうか。鳥には鳥の道がありませう。犬には犬の道がありませう。能く笑ひ話に申すのでありますが、犬にも亦澤

山の道がある。犬にはセツターもありませう。セパードもありませう。テリヤもありませう、狆もありませう。澤山色々なものが居るが、各々其の道が違つて居る。狆が宜いと云つて此狆を引張つて行つて、獵に行つたならば、人が笑ふのであります。犬ならどれでも同じだからと云ふ譯はない。犬の道には矢張り天性の使命と云ふものが各々異なつて居るので狆は狆として、自分の使命を考へて涎掛でも掛けて、お孃さんの傍に居れば、それで非常に尊い狆になるのである。之を自分の道を知らずしてセパードの眞似をしまして、如何に訓練をしましたる所で、一向に恐ろしくないのである。番犬としてほえることは出來ませうが、セパードのやうな役には立ちませぬ。

國民の特性を活かせ

吾々は人間であります。然らば日本人と支那人がどの位差がありませうか。狆とセパード程の差

がありませうか。之を考へなければならぬのではないか。況や、ヨーロッパと東洋の諸民族を捉へ、例へばイギリス人と日本人とを捉へ或はドイツ人と日本人を捉へて見ましたなら、何か其處に差があるのではないか、必ずあり得るでありませう。又なければならぬのであります。それを考へずにドイツでやつたから、マルクスを宜いと云つて、マルクスさあ來いと云ふのは恰も狆がセパードの眞似をするのと其の義を同うするものである。敢て今日六ケ敷い言葉は使はぬでも、昔から「鵜の眞似をする烏は水に溺る」と云ふ言葉がある。新しいことでも之で總て言ひ現はし得るのではないか。

今御互が日本人であることは疑はない。縱し日本人でないにしても——吾々の祖先が或はアイヌであつたかも知れない。朝鮮或は支那から來たのかも知れないが、兎に角今日現在は日本人である。卽ち日本國民である。而して此の多數の日本國民の間に、日本民族の間に既に育つて、此の風土、氣象に

依つて養成せられ、此の歴史に依つて、日本の進むべき道を理解した所の吾々は日本人として行くより以外の方法はないのである。

日本人は日本人らしく

日本人たることがいやなら日本においでにならなければ宜いのである。何も日本に居らぬでも、ドイツがそれ程宜かつたら——敢てロシヤに行かぬでも、一足飛びにドイツに行つて御覧なさい。今ドイツでもマルキシズムは容れられない。「マルキシズム」はドイツに生れてドイツに帰る事も出來ないのではないか。併しドイツがいやならばロシヤに行きなさい又ロシヤがいやならばアメリカに行きなさい。何處に行つても宜しい。又國籍の離脱届をお出しになつて明日から「ベトロフ」でも「ジョン」でも「ヘンリー」でも宜しいから、改名されるが宜しい。さうして呉れゝば、日本としては非常に朗かになる。日本人は各なことは言はぬ、去る者は追はずで、行き

たいものはどうぞお出でなさい。敢て産兒制限をしなくも斯うすれば人口問題も自然に解決が出來るではありませぬか。

反逆兒は困る

苟くも生を日本に享けた日本人であり、日本民族である以上は、又さう云ふ自覺をした以上は、其の道を踏んで戴きたいのである。若しそれが何等か氣分の加減でいけないとすれば、他にお出でになる方が宜いと思ひます。其の代り又更にお考へになつて同胞戀し日本人戀し、あゝ我が祖國日本よと云ふ念が起つたならば、何時でも日本に歸つていらつしやい。吾々は決して之を拒むと云ふやうな吝な考へは持つて居ないのであります。日本人、日本國民として立ちながら、祖國を他に求めて、攪亂運動を起し、又は惡戲をするに至つては、吾人は敢て申しますに吾々同胞の反逆兒である。日本人のなすべき道でないと斯く斷言して憚らないのであります。

此點は決して何も憎む必要はないのである。此處は大きく考へてやつて宜からうと思ふ。酒の好きな人は酒場やバーに行けば宜いであらう。又甘黨の人は、しるこ屋に行くが宜い。それを餘り咎めるのは日本人の本當の道ではないと思ふのでありまず。

行く可き道は一つ

斯様に考へて見ると事は極めて單純である。喧しく何的の何と云ふやうな難しい文字を三つも四つも澤山並べなくとも宜いのである。滿洲事變を契機として起りました此の時局に對する吾々の行くべき道は、一言にして盡せば、吾々の軀を裸體にして腹まで曝け出して鏡に向つて寫して、其の儘に行くべき道を行つたなら夫れで宜いのである。他に難しいことは何にもないと思ひます。

矛盾を避けよ

吾々同胞が今日考へて居ることは、自分の姿をハツキリ見て行かないで、シルクハツトを冠つて、足駄を穿いて、手拭を腰に下げて、傘を持つて、チヨツキを着て、例の何とか云ふズボンを穿いて、其上に袴を穿いて紋付きを逆様に着てそれで歩いて居るのではないか。シルクハツトを冠つて居る所は西洋人臭いが、足を見ると、どうも日本人らしい。大きい高い

足駄を穿いて居る。さうかと思ふと、ネクタイなんぞぶら下げて、都會人かと思ふと、片方には菅笠と竹の杖を引摺つてゐる。

物にはそれ〴〵道がある。シルクハツトを冠つたら、フロツクコートを着るのが當り前だ。行く所まで行つて欲しいのである。女にして見れば、結婚式に行く時には振袖姿が宜い。臺所をするには襷（たすき）懸（がけ）が宜い。それを混然として、東西南北悉くを惜しがり、あれも是も棄てられないと思ふから、今のやう

な恰好になるのであります。裸になつて――私の背は五尺三寸二分ばかりでありますが私の身に相應はしい着物を着て、少し破れたならば、つぎをして、或は洗濯をして、そして堂々と、往來を歩けば宜いのである。まさか人が傍に寄つて、彼處につぎがありますとは言はない。隨つて之を以て總てのものに付て考へて、單純に此の道を進んで行くと云ふことが今日の時局に處するの道であると思ひます。

忘るな大本

是で聰明なる諸君が總てのことを考へて下さつたならば、私は是から縷々數百言を費す必要もないと思ひます。私共が行くべき道をチヤンとお考へになつてお進みになつたならば、それだけで宜しいのであります。吾々は小さなやかましいことは言はない。蟲を一匹殺しても殺生するなと和尚さんは言ふが、私は宜いとは申しませぬが、又それを咎め

はしませぬ。酒を呑み過ぎて、前後知らずになつてしまつて人に迷惑を掛ける位の罪は許します。それは日本人が――中には道學の先生もありませう、又宗教家もありませう。又それ等の方は已の言はんと欲する所に進んでお出でになつて宜しいのである。一番大事なことを忘れてしまつては蟲一匹殺さないでも、又日本人として生れながら、自分の祖國が何處にあるかと云ふことを知らないやうな者があつたならば、酒も呑まず、女も買はず、如何に眞面目な人でありても私は其の人に對して其の人を本當の人とは言ひ得ないのであります。

常に日本人らしく

此處で申上げることは非常に不謹愼でありませうけれども、此處で言へないやうなことをおやりになつても、私は日本人と云ふ自覺を以ておやりになつて、其のやり方が日本人らしくさへあれば、私は別に咎めない。之を許します。故に斯う云ふことを

此處で言ふことをお許し願ひたいのでありますが、泥棒するのにも日本人らしく泥棒したら非常に悪くはないではないか。此の行爲を許すとは私は申しませぬが、併し泥棒も日本人らしく盜めば、憎むべき泥棒にならないと思ふのである。

非常に困つたから、晝間入るのは恥しいから、深夜頬冠りをして、戸を開けて呉れないから、已むを得ず裏口から鍵を外して入る。そして其處の家の者が眼を醒ますと其の時に、貴方の安眠を妨害して洵に

何とも申譯がない。斯々の次第で貴方の所に御相談に上つたのです。實は懷に短刀を持つて居りますす、是は決して貴方を殺す積もりでも何でもない。泥棒の資格として短刀を持たなければならぬからなのです。偖て如何でござる。斯々の次第でござると相談された時に盜まれる方の人は日本人らしく盜まれるのであるから、ものを言ふ時にも日本人らしく、私はあなたがさう云ふ風に困つて居るとはつい今迄知らなかつた。甚だ相濟まなかつた。今

日迄知らなかつたものだから――實は私も今困つて居る、是から御相談に行かうと思つて居つた。併しながら貴方が態々お出でになつたのであるからせめて私の兵兒帶なりと持つて行かれたらどうか。さう言つた時に泥棒は何と言ひますか。それでも「出せ」と言つて、まさか懷から武器を出しはせぬでせう。

些事を爭ふ場合でない

其の代りに、何とかお互にやつて行かうと云ふことで二人で出掛けて行つて、それを金に代へて、是から先どうしようと言つてお互の將來の事に付て相談すれば、そこに話が付くのである。但し家宅侵入と云ふやうなことが或は起るかも知れない。併し片方は實は家宅侵入でない。實は以心傳心でお招きを申したと云ふのである。極端なことを申しま

すればさうぢやないかと思ふのであります。併し或る場合には、それは人間のことでありますから、さう落着いて行くことも出來ないで、時には癇癪を起すこともありませうが、日本人が此の時局急なる時に此の大事な時にお互の細事で爭つて居つては相濟まぬ。お互に許し合ふことが必要でありまして、つまらぬことは餘り喧しく言ひたくはないと思ふ。

修業を積め

一年々々と段々修業して進んで行く中に、修業を續けて行けば卽ち各々道に依つて修行を積み、山に依つて修業を積み、或は海に依つて修業を積む者もありませうが兎に角自分の志す所に從つて修業を積んで行くならば、年と共に新になつて、相當に其人は向上し得ると思ふのである。其間の徑路は人々の境遇に依つて違ひませうから、吾々は決して吝な

ことは言ひませぬ。海の中で溺れて修業をする人、山に行つて凍えて修業する人、それは其の心持さへあつたならば少し位の過ちは大きな心持で以て許さうではありませんか。日本人であり、日本國民であると云ふことが、其處にハツキリと現はれて行くならば、私は之を許してやらうと思ふのであります。

國難も何のその

大變話が極端になつて、幾分奇矯なやうにお聽きになつたかも知れませぬが兎も角さう云つた理由、さう云つた考へを以つて吾々は進んで行く以外に他に道はないのである。日本人として、日本國民として、自分の頭に絶えず湧いて來る所の考へを失はずして、眞直ぐに進んだならば、此の非常時局と云ふものは難なく處理し得るのである。此の時局は切抜け得るのである。

一旦風雲急を告ぐれば、九千萬の同胞が一糸亂れず、此點に於て絶えず結束して事に當ると云ふ氣持

は、是は吾々日本人の血の中に流れて居るのであつて、今日まで日本が危急に遭遇すると總てを打忘れて結束し國難を打破して來た事は國史に明かであります。それは自然に持つた吾々の精神であり吾々の長所とする所なのでありますが、今後と雖も是非さうありたいと思ひます。

それが行動の上に現はれ得るならば、もう貧乏などは決して憂ふるに足らず、彈丸黒子の國と笑はれようとも決して之を心配する必要はないのである。

況や世界に比なき此の國體、世界に冠絶せる此の神、世界に卓越せる此の地形を持つた吾々九千萬同胞が日本國民として存在するならば何の憂ふる所もないのであります。貧乏で金が必要ならば、金のある所に向つて氣を揃へて行くが宜い、さうすれば期年ならずして是を解決し得るのであります。併し眞に日本人であると云ふ自覺に燃えるならば、その様な卑怯な事は出來ないであらうと思ふのであります。

先づ人の和を圖れ

國防の上から申しましても、昔から、天の時は地の利に若かず、地の利は人の和に如かず、と言つて此の和が一番大事である。曾て魏の武侯が、美なる哉山河の固め、是れ魏國の寶なり、と斯う言はれた。要するに國民の總てが和して行かなければ、駄目である。唯それ一つである。軍事費が非常に餘計に掛つていかぬと言ふならば、もう要塞を全部平らにして兵

器を全部仕舞ひ込んで此の九千萬國民が一致して、人と人との和、皇室と日本道とを戴いてやつたならば宜い。さうすれば國防の爲に竹槍三百萬本を備へて置きさへすれば、それでもう澤山だと私は思ひます。竹槍三百萬本位の費用は幾らの費用にもならぬのである。毎年々々甲州から新しい竹を切つて槍を造つた所で三百萬圓は要らないのである。その軍事費を以て生産費、教育費に充てれば洵に結構である。若し軍備にして最も必要なるものと言

へば、第一に人の和であるのであります。而して人の和は、お互が日本人であると云ふ自覺の上に立つてこそ、其處に強い人の和が得られるのである。

放たれた心

故に私は各方面から見まして、此の時局に對して諸君の踐むべき道は唯一つであると叫ばざるを得ない。平常は居眠りをして居つても、或は酒を飲んで居つても宜い。細かい事は私は咎めませぬ。それは各々人に依つて都合もありませうから——併し前に述べた一點だけは肝に銘せられたいと云ふことを申上げて置きます。滿洲事變以後の時局に處して、吾々は、若し孟子の言葉を以て言ふならば放心を求める、卽ち放れたる心を求める、それを想起しまして、茲に吾々が日本人として立つて、其の道を明かに社會の上に、政治の上に行つて行くと云ふことが一番必要である。諸君にお願することの一點は此處に在るのであります。

日本人の反省すべき點

顧みまして、然らば日本は一體どうなるのでありませうか、一つ是から棚卸しを致しませう。お互社會の組織とか、政治の組織とか、經濟の組織とか云ふやうなものは別にして、吾々は、吾々自らを顧みて、果して日本人だと言ひ得るか、それでは日本人は一體どんなことをしたら宜いのであらうかと云ふことを諸君と共に一つ判斷して見たいと思ひます。私

自らを責める積りであります。決して私は諸君に教へるとか、諸君に向つて小言を言ふ程の柄でもないから、諸君と共に反省して行きたいと思ふ。

白人に伍して貧弱

先達て、ハーゲンベックの曲馬團を是非見よと云ふ仰せがありましたから早速拜見を致しました。さうして其處に行つて痛切に感じたのであります。あそこに日本の青年達が六十人ばかり働いて居つ

た、讀者の中には其の中の方がおいでになるかも知れないが、其の人達はドイツ人に伍して如何にも心細いのである。ドイツ人必ずしも日本人より大きくもなく又肥つても居ないのである。それは何と言つたつて曲馬團の一團だからだ。日本にも曲馬團はある。さうして日本の曲馬と云へば大したものでないやうに思ふのである。ドイツの曲馬團、ハーゲンベツクの曲馬團と云へば、それは偉いものに世間が思つてしまふのである。併し單なるドイツ曲馬團であつても、實際に其處に並べて見ますると、どうしても日本人の方がだらしがない身體が貧相で緊つて居ない。

身心の緊張を缺く

第一力がない。均齊が取れて居らぬ。さう言つたらお怒りになるかも知れぬが、自分も日本人だから隨分贔負眼に見て居つた譯であるが、どう見ても見劣りがするのである。あれが吾々の同胞でこれ

がドイツ人かと思ふと、甚だ淋しさを感ぜざるを得なかつたのであります。日本人は全體に力がない。鍛へられて居ない。要するに緊張を缺いて育つて居る。日本の一般の風がそこに反映して居るのではないか。其處に働いて居る青年も、日本人であることを自覺してドイツ人に負けずにやらうと一生懸命にやつて居るのだらうけれども、二十年、三十年と長い間さう云ふ風習がついて居るから、急にはドイツ人を負かすことは出來ない。果せるかな其の

能率もドイツ人の三分の一しか出ないのである。單なる曲馬團に於て之を較べて見ても然りである。況や軍縮會議に於て、日本の海軍が六割のマークを付けられたのも、それだけの値打しかないからなのである。ドイツ人の三分の一と云ふから、僅に三割三分三厘にしか當らぬ譯で實に情ない次第である。

心身を鍛へよ

物は見方に依るものであつて、或は背が高いのが

宜いのかも知らぬ。又或は背が低いのが宜いのかも知らぬ。併し風采から云つて、私が贔負眼で見た所で、日本人の方が風采が上つて居ると、實は言ひたいのだけれども、世界の人は之を何と見ますか。さぞかし神經質で、貧相で、變な恰好をして居るやうに見えることであらうと思ふ。併しお互の反省であるから、どうかお怒りにならずに聽いて戴きたい。お斷りした通り悪い事ばかり擧げるのであります から。

而もさう云ふ變な恰好に見えるのは何に依るかと言ふと、勿論精神方面もありませうが第一身體である。幾ら精神が緊張して居つても、身體に缺陷があるのではないか、いや小さいからいけないとは決して言はない。小さければ小さいながらに鍛へなければならぬと思ふ。荒岩が常陸山を投げた例さへある。鍛へさへすればきつと行き得るのである。併し日本人は日本人の長所を取つて、日本人らしく鍛へようとする努力が足りないやうに感ぜざるを

得ないのである。それでつまり此の間見ましたことに就て、自ら反省したのであります。之を何としても、吾々が考へなければ、此の一點に於て負けるのであります。後は氣力に依つて、或は智慧に依つて勝ち得るのであります。

體力の增進

此の頃は運動が隨分盛んになつて、それに從つて段々背が高くなつたと言ひますが、背が高くなるのが能ではありませぬ。餘りに大きくなると、自動車に五人も六人も大勢乘れませぬ。それでは第一不經濟だ、小さいなら小さいなりで宜いのである。小兵なれど山椒のやうにピリヽと辛い所があれば宜いのである。あのハーゲンベックの曲馬團では、あれだけの人を使つて居つても、非常に統制が取れて居りますから、一、二、三と號令通りに仕事が進行して行くのである。

此の頃の體育運動は所謂選手運動で、其の他の者はフレー班で、唯旗を振つて居るだけである。幾人かの人が一生懸命に汗水を垂らして、種々なことをやつて居る。これは實に不經濟なことで、あれだけの力を外の方に運用したならば素晴らしいものだ。野球をやるのも宜いが、野球をやる者よりもフレー班の方がずつと多いのである。あれを何とかして、野球の試合がある時には、フレー班、見物人は必ず一、二、三と一時間位體操をやつたならば共に効果を擧げ得ると思ふ。

何とかお互に普遍的にさう云ふ意味から體力増進の法を考へる必要があると思ふ。前に述べたやうに低ければ低いだけに、それに適した仕事をすれば宜い、脚が短くても、顏が黄色くても、それは神様に依つて作られたものであつて決して卑下すべきでない。それを圓滿に發達させるのが眞の行き方である。四尺ならば四尺だけで結構である。脚が片方なからうと、手が片方なからうと、眼が片方なから

うと、さう云ふことは更に心配する必要はない。盲目だつて眼あきより餘程冴えた所がある。皆が塙保己一のやうであれば、世の中には電燈など要りませぬ。

それだけ世の中が經濟になる譯であります。

盲者に負ける眼あき

私は何時も盲學校に參る度に盲生に敬意を表するのでありますが、僅十歳か十二歳の盲の子供が、算盤をやつて居るのであります。それを見ますと、手を全部使つてやつて居る。併し眼明きは不幸にして眼が能く見えるので、指を二本か三本しか働かせない。盲は五本の指と、掌全部が働いて居る。即ち感でやつて居るのであります。十と言へば、皆觸覺でやるのでありますから非常に早いのであります。而も少しも間違ひが起らない。間違ひの起らないのは何故かと言ふと、皆觸覺でやるのであるから非常に早くやれるのであります。例の熊本の遞信局

の珠算の競技會には、何時でも目明きの優勝したことはないのであります。其の盲生が何時も優等で、眼明きは盲生に對して降伏をしたのであります。

眼あきが反つて僻む

世の中に身體が不自由であると能く僻むと申しますが、それは嘘です。眼明きでも敵はないと僻むことがあります。是は盲學校の先生に承はつた話でありますが、競技會を毎年やつて行く中に、眼明きはどうしても敵はないのでしたのである。表面にそれを出しては何となく心苦しく思ひまして、競技の方法に付て提案を爲したのである、卽ち目が見えなければどうしても出來ない競技を一つ加へたのであります、大きな紙を持つて行つてズーツと數字を書き並べて、十分間貼つて置き、それを取つた後で答へを出すと云ふのである。眼で見なければ此の競技は出來ないのであるから、盲生は此の競技を棄權したのであります。こゝで

初めて眼あきの方に優勝者を出した、斯う言ふ事實があるのであります。

鍛錬は總てを補ふ

だから眼が片方見えなかつたとしても決して心配する必要はない片方の眼で二つ分の働きをさせれば宜い。手が一つしかなかつたならば、手一本で三本だけの働きをさせたならば宜いのである。世の中には幾らでもさう云ふ例があるのである。現に片方の手でどんどんと帳面を綴ぢて居ると云ふことを聞きましたが、吾々には兩方の手があつても、不器用であるから中々巧く行かない。

人間は鍛錬さへして行けば、決して不自由なことは起らぬ。それを直ぐ落膽してしまふからそこに敗北が來るのである。何是れ位の事と頑張つてやれば何でも出來るのである。昔有名な軍略家大谷吉隆は擔架に乘つて陣に臨んだと云ふ話が遺つてゐるではありませんか。で

兵隊に採らないと云ふのは間違ひかも知れません。故に決してさう云ふことを悲觀せずに、そこを已れの長所としてどん〳〵補つて行けばそれで宜いので、決して憂ふるに足らぬと思ひます。

その使命を果せ

前にも申しました通り、總て物は見方に依るのであります。アフリカの方に行くと、唇の尖つた者が美人だと云ふことでありますし、自分の心を統制して、それを補つて親から神様から貰つたものだから人が何と言はうと、どうでも宜いのだ。決して人のことを善いとか悪いとか言ふ必要はないのであります。先程言つた通り、二つの犬を較べて見て、シエパードが如何に良くても、あのシエパードのやうな狆が出來たら本當の狆でなくなつてしまふ。狆は狆として愛翫用に供せられゝば宜いのである、シエパードは御存知の如く狼の如き顏をして居て實に醜いが、之を展覽會に出せば矢張り一等賞を取れる

のである、要するに各々の特徴に應じて、そこに價値が出て來るのであつて、物覺えが悪いと言つて、決してそれを心配すべきではない。人一度すれば己れ十度し人十度すれば己れ百度する。さうして人より十年二十年と長生きをすれば必ず優つたところが出來て來る。併し醉生夢死六十年何の効ぞ、六十年生殘つても、醉生夢死したのであつては何等得るところはない。自分の天稟を伸ばさんと努めることを自分の生活の樂みとなし、その樂みを求めて進んで行くと云ふことは日本人の誰もが持つべき覺悟であると思ふのであります。それに今申した身體が第一である。其次が勤勉であります。

支那人のこの努力

それから日本人は非常に優越感を持つ國民であります。優越感を持つて居るから悲觀しないかと思へば、さうではない、悲觀もするのであります。私は嘗て旅順に參つたことがございますが、宿屋に着

いて朝早く見ますと、前は日本人の家である。五時頃にはまだ日本人は起きて居りませぬ。まだ白河夜船の最中であります。然るに十六、七位の支那人の子供の一團が――是は決して乞食ではない――五時頃だと云ふに、皆集まつて籠を背負つて、竹を持つて紙屑拾ひのやうな恰好をして、日本人の掃き溜を開けて、有りと有ゆる物を皆持つて行く、鑵詰の空鑵、折の壊れたもの、何でもおかまひなしであります。尚ほ見て居りますと、丸めた新聞紙が出て來ました。それを其の儘籠の中に入れるのかと思つて居るとチヤント完全に引伸ばして、之を重ねて籠の上に載せ又隣の掃き溜を漁つて行くのであります。

支那人に逐はるゝ日本商人

また斯う云ふこともあります。旅順、大連に居た所の邦人の商人が支那人から段々驅逐されて、折角資金を投じて居つた者が敗北してしまつた。是は今の屑拾ひの話から考へてみると當然のことであ

ると頷かれるのであります。日本人が寢て居る間に寶は皆支那人に持つて行かれてしまふのである。

私は此の行動を敢て眞似をせよとは申しませぬ。日本人には日本人の建前があり、日本人の作法があり、誇りがあるから人の掃き溜をまで漁つて歩かんでも宜いのでありますが、此の新聞紙を擴げて持つて行くと云ふ、此の氣持が經濟的に日本人が支那人に及ばざる所以である。

日支ビール商、賣方の相違

それから更に大連市中の話を聞いて見ますと日本人の賣るビールは支那人の賣るビールよりも高い。又豆腐などもずつと高いのである。又それは日本人は總ての物を電話で註文をとり、支那人をして配達せしめるのである。豆腐屋までが洋服を着て、煙草を燻らして支那人に豆腐を擔はせてお顧客先を歩かせて居るのである。一方支那人は數年經

つて其の業を覺えてしまふと、自ら豆腐を造つて、自分で擔つてお顧客先きを歩いて日本人が賣るよりも安く賣るのである。それは當然でありませう。電話も使はなければ使用人を雇つて居ないのであります。自然費用が省けますから——さうして日本人は段々支那人に商賣を取られてしまひます又支那人はビール箱などを壞します時でも、丹念に釘を拔いて、板は綺麗に揃へて、其の釘を揃へて其の釘の値は幾ら、其の板は幾らと、ビール一ダースの値段から、それだけのものを差引いた後のビールを賣ります。又、雇人も使はずに自分でお顧客先きを廻るから、それだけ安く賣れるのであります。所が日本人は其の箱は皆捨てゝしまふと云ふやうな工合である。此處が日本人の支那人に經濟的に敗北する所以なのであります。

聞かしてやりたい白雀の話

又臺灣の製氷會社の話を聞いて見ますと、日本人

の氷屋は電話で註文をとつて置いて八時か九時頃にやつと起きて、楊子を啣へながら支那人の雇人に命じて、其の支那人に氷を取りにやらせて、それを註文通りに切つて、それから其の支那人に賣らせるのである。所が支那人の氷屋になると、電話などは使はない、勿論雇人も置かないで、氷を賣る位朝飯前である。自轉車一つ買ひまして、朝早く自轉車でお顧客先を廻つて歩くのである。

東京のやうな大きな所では、隅から隅までは參れませぬが、或る一區劃の氷を販賣する位なことは例へば臺北のやうな所では、自轉車でズーつと廻つて註文を取つて其の歸りがけに製氷會社に行つて現金で一割方安く買つて、さうしてそれを註文した先に自轉車で運ぶから家に歸る頃には商賣を皆終へてしまふのである。

斯樣にするから自然氷も安く賣れる。遂に日本人は支那人に商賣を取られてしまふと云ふやうな話を聞きました。私は敢て卑しくなれとは申しま

せぬが、勤勉と云ふことに就いては、今日の狀態ではまだ甘んずる譯には行かないのであります。

外國人から習つた怠け癖

私達の子供の時分には、東京の市中と云ふものは午前五時頃には大抵店先きに水を打つて居たものであります。御年配の方は御存知でありませう。所が最近は、朝東京市中を歩いて見ましても、中々七時や八時頃ではまだ店が開いて居りませぬ。文化が進むに從つて、朝寢坊をすると云ふのが或は標準なのかも知れませぬが、兎に角餘りにだらしがなさ過ぎる、私は文化と云ふことは、だらしがないと云ふことが基調であるとは考へない。今日の言葉で申すと最も合理的に進んで行くならば、電氣は暗くなつてから點けるものであつて、宵つぱりをする爲に點けるものではない。太陽がカン〳〵照つて居る間は寢て居つて、電氣が點く頃になつて働くのは合理的でない。吾々は是から先き、決してこんなだら

しのないことであつてはいかぬ。もう少し勤勉でなければならぬと思ふのであります。それは矢張り日本人の本質、本性ではないのであつて、皆外國人から習つたものであります。

法律で世の中は動かぬ

又世の中がもう少し面倒になつて來て、誰でも六法全書を讀まなければ世渡りが出來ないと云ふやうになつて來ましたならば、今度は世の中のことが巧く動かなくなつてしまふ。若し日本人が、法律の理窟で頭の良さ加減を示されたならば、世の中は迚も煩はしくなつて來るだらう。毎年々々出る法律は幾つあるか。而も取消される法律は少しもないのであるから諸君が如何に勉強しても全部を消化することは一生掛つても出來ないであらう。

浮かばれぬ士左衞門

先年パンフレトか何かで見ましたが、或る外人が

日本人を評して、日本人は厄介な融通の利かない國民だ、と云ふやうなことが書いてありました。築地の河で土左衛門があつたが、其の死人を誰かゞ見つけて直ぐ警察に訴へに行つた。直に巡査がやつて參りました。其の死體は向ふ側にくつ付いて居る。さうすると其の巡査はあれは俺の管轄ではない、向ふ側の管轄だ、と云つて歸つてしまつた。さうすると、深切な人が向ふの警察に届けに行つた。さうすると向ふの警察からやつて來ました。其の時には

水の加減で、死體は眞中に浮いて居た。そこで是は俺の管轄ではない。頭が向ふに向いて居るから向ふの管轄だ、と言つて承知しない。そこで兩方の人がやつて來て、頭の方は俺のだけれども、眞中に線を引つ張つて見ると、そちらの方が多いとか云ふことで、談判し、中々片が着かない。規則にはさうなつて居る。そしてお互に權利とか、義務とか云ふやうな事ばかり言つてなか〳〵結論がつかない。さうして最後に是は水の中のことだから水上警察のやる

仕事だらうと云つて、兩方共別れてしまつた。今度は水上警察へ届けると、水上警察は急いでやつて來る。生憎のことに水が引潮で今度は陸の方に上つてしまつた。斯う云ふやうな話が書いてあつたのでありますす。そこまで書いてあつて、日本人は如何にも世話の焼ける人間だとあるのであります。

世話のやける日本人

それと同じやうに、日本人は春になれば、大掃除をしなければならない。併し掃除をせよと云はれなければ、掃除をしない。役場から、何月何日大掃除をしろと云つて來なければ、掃除をしないのである。旗を揭げよと云つて來なければ、旗を出さない。又、もう暑くなつたから綿入から單衣物に更へなければならぬ、と云はなければ着かへないと云ふやうに、世話の焼ける國民だから、さぞや、官吏や、公吏、役所は世話の焼けることだらうと、吾々に對する警告らしく書いてあ

つたのを見たことがある。今日の日本の、少くとも東京の狀態を見まして——私は敢て東京とは申しませぬが、私の住んで居りました、若くは今居る所の、附近の狀態を見ますると、正にそれに近いものがあります。始終お觸れが來ます。明日は何の日だから國旗を二本出せ、縱に出せ、横に出せとまで云つて來る。

元來聰明なる日本人

然し日本人は元來その様にまでしなくとも判斷する國民であります。ドイツ人は先程申しました通り、非常に統制されて居る代りに、融通が利かない。非常に組織的になつて居るが組織が一度崩れてしまふと、それ切りである。日本人は、非常に鋭い聰明な頭を有つて居りますから、そんなことは云はれぬでも、其の理窟さへ分れば、例へば、掃除をしなければ

不衞生だと云ふことが分れば、自分で掃除をするのである。

それを働かさないやうにしたのは、ドイツ流に餘りに細かく規則を設け、此の規則に依つて歩かうとするから、規則の外に出ると大變だから、旗を出すべき日であつて、而も旗を出せと云つて來なければ、何か間違が起りはしないかと思つて、お觸れが來る迄は旗を出さない。今日は旗を出す日だが何かの都合で出しては悪いだらう位に思つて、躊躇するので

ります。之れをよく判斷して行かねば急の役に立たなくなります。

感情に動きすぎる

日本人同志で一つ訴訟などを起したら、被告と原告で以て大喧嘩です。仲の良い被告と原告と云ふものはありませぬ。もう訴訟を始めるとお互ひ物凄い權幕である。だから日本人で爭議の起るのは當り前であります。それは日本人は感情が強いし、

意志が強いし、恥を知り、禮を知る國民であるから、それが少しでも禮に違ふと聽かないのであります。

先頃も越後に旅行した時に、小作爭議がありました。あんなことをしなくても、よいだらうに日本では一坪の土地の事で訴訟でもしたら、中々片附くものではありません。此の畠は俺の物だ、こちは俺の所だと言つて、一つの境界爭ひなどすると、お互がもう強情つ張りになつて、却々片が附かない是は俺の祖先からの記錄に依つて俺の所有だと云ふ證明があると片方が言へば、そんな事はない、是は俺の所の公正證書に依つて明かだ是は俺の物だと言つて喧嘩をする。訴へをする。そして又辯護士が澤山附いて居る。そこで裁判所は、第一回第二回と、段々調べて、或は戸籍まで調べるかも知れませぬが、正しく解決しようとします爲に、何時迄も之を引つ張つて置きます。

結婚にまで災ひする

こんなことになると、今迄仲の良かつた者も、太郎兵衛は怪しからぬと、段々仲が悪くなつて、婿取り、嫁取りもしないと云ふことになつてしまふ、然も其の訴訟が解決する迄に、どの位の月日を要するかと言へば長いのになると、十年位も續くのであります。終ひになると、裁判所は面倒だから、お互に和解したらどうかと云ふことで、そこで初めて和解と云ふこ

とになる。十年掛つて一坪の土地を半分づゝ分けた所で、お互仲良く交際して居つた者が仲が悪くなり、莫大なる費用を使つても、結局得る所はないのであります。

之に反して、一方の人が、此の一坪位の畠を賣つた處で何と云ふことはないのだから、あなたの所に取つて置いたらよいでせうと言へば、片方でも決して、それを取りはしない。いや、是はあなたの所に、是はあなたの所にと云ふことで、結局和解が出來て、あな

たの所とは別懇に願ひますと云ふことになつて、婿取り嫁取りも都合よく行くのであります。何故、十年も掛つて詰まらない喧嘩をするのか。是は前に申した通り、日本人は直ぐ感情を働かすからである。

獨逸人のこの冷靜

外國に行くと、權利、義務で却々難しい。直ぐ法律などを引つ張り出して來る。ドイツで最近訴訟と云ふものに關して斯う云ふ話を聞きました。家庭教師が其の家の子供を教へて、歸りがけに外套を着る時に、飾皿を落してしまつた。さうすると其の家の主婦は、直に其の家庭教師を相手取つて、損害賠償の訴訟を起した。訴訟は法廷で以てどん〳〵進行して居るが、家庭教師は毎日其の家に來て、子供に教へて居つた、何等普段と變る所はない。其の間に裁判が進行しまして、段々事情を調べて見ると、家庭教師が悪いばかりではなく、女中の外套の着せ方に多少の手落があつた爲に、外套の袖が觸つて、飾皿が落

ちたのだから、それは家庭教師と、其の女中、乃至其の家の主婦との折半だ、故に二分の一の辨償を拂ふべし、と云ふ判決が下された。さうすると、主婦は直に損害賠償の金だけを差押へた譯である。詰まり、其の家庭教師の月給の中から、二箇月分ばかり差押へた譯である。

一方家庭教師の方は、月給を差押へられても、どうせ支拂はねばならぬ金だから、今現金で拂ふよりも、月給を差押へられた方が都合がよいと云ふことで、

其の儘それを受諾した譯で、それから二箇月間無報酬で其の子供を教へた。さうして其の間、少くともでありました。此所が日本人とドイツ人と違つて居る所である。一體日本人とドイツ人を同じやうに一つの六法全書か何かの型に入れてやらうとするから、其處に無理が生ずるのである。彼にも長があり。我にも長がある。さう云ふ點を、吾々はハツキリと考へなければならぬのであります。日本人は

左様に考へて行くと、直に他のものを眞似て行くといふ所に誤りがありはしないかと思ふのであります。

金を愛する支那人

支那人のことばかり言うて、支那人を侮辱する様になりますが、支那人は、金に對しては非常に忠實である、と云ふ風に傳へられて居る。其の點、日本人よりか遙に忠實である。金に對して非常に忠實であ

りますから、五圓の報酬を貰へば、其の五圓だけの働きは必ずする、其の代り五圓より一厘も餘計には働かない。嘗てシベリヤのロシヤ軍が支那人を雇つて使つた事がありますが、非常な暴風雨の晩に、第一線に雇はれて居つた支那人の歩哨が、どん〳〵引上げて來るのであります。驚いて其の理由を聞きますと、斯う云ふ暴風雨の晩に働くだけの分は私の月給の中に入つて居ないから嫌だ、と言つて歸つて來たのである。それで仕方がないので、然らば三ルー

ブルやるから、今夜どうか歩哨に立つて呉れ、と言つて金をやると、今度はチヤンと元へ歸つて行くのである。併し、どうも怪しいと思つて、巡察をやつて見ると、チヤンと三ルーブルだけの仕事はやつて居る。

日本人などになると、義理であると感ずれば、一厘の報酬がなくても、命を捧げる。併し其の反面一つ間違ふと、百圓やらうと言つても、私は御免だと言つて、斷るのである。其の點支那人と全く違ふ所である。

溺れながら救助料を値切る

こんな話をすると嘘だらうと思ひますが、次のやうな話もあります。支那人が水に溺れて、助けて呉れと、救ひを求めて居る時に、人が通り掛つた。さうすると、其の溺れつゝある支那人は水の中から手を出して、五圓やるから助けて呉れ、或は六圓やるから助けて呉れと言へば、陸の方から、五圓では安いもつと出せ、さうすると又水の中でブクブクしながらど

うか五圓に負けて呉れと言ふのである。そんな急な場合でもさう云ふことが行はれて居る。或はさうまでは行かないでも、是は實際の話からさう云ふ事を形容して居るのかも知れませぬが、さう云ふ事を聞いたことがあります。此所に長所もあれば、短所もある、敢て賤しむ必要もないのであるが、又笑ふ必要もない。支那人には日本人に及ばない所もあり、又吾々に解し得ない所の作用もあるのであります。

眞の日本人の氣質

日本人は之に反して、出し方に依つては、決して只では受取らないのであります。假に何か間違ひがあつて、先刻のやうに金を借りに行つたとする。さう云ふ場合、馬鹿野郎、泥棒、貴樣のやうな奴には斯うして呉れる、と言つて唾を吐いて金を出せば、泥棒と雖も其の金は取つて行かない。そんなものはいらぬ、と言つて捨てゝしまふのが日本人である。幾ら

欲しくて堪まらなくても、罵倒されゝば、本當の自分の眞心に立ち歸つて、其の金を叩き付けてしまふ。

併し出し方に依つて一錢の金でも、奉書に包んで慇斗を掛けて、何だけれど、私は今、實は金がない。幾らも入つて居らぬが、貧者の一燈と言つて、是で何んとかあなたの歸りの旅費の一部にでもして呉れと、眞心をこめて云つて出せば、幾ら入つて居るか分りませぬが、辱ないと言つて、假にそれが一錢であつても、あの人は自分の爲に、僅かしかない金の中から一

錢だして呉れたのだ、と云ふことを思へば、是は使ふ所の騷ぎではない、一生それをお守にするだらう。あの人は實に感心な人だあの人の爲めならば、命を捧げても宜いとさへ思ふのである。斯う云ふ眞心を融合した時の心理は、外國人には分らないと思ふ。お互が利害關係を離れて、チツと考へて見たならば日本人にはさう云ふ風になり得べき素質を誰もが有つて居ると云ふことが分るのであります。

是も物語でありませうけれども、横濱で外國人が

足の先に小判を挟んで、おい猫、是を喰はぬかと、藝者に差出した時に、妾だつて日本人だ、何をと言つて、偉い氣焰を擧げて、其の小判を蹴返したと云ふことがある。足で人に物を呉れたり、人を猫扱ひにすると言つて、痰呵を切つたと云ふ清らかな話がある、全部が全部とは申しませぬが、左樣に日本人は出來上つて居るのである。この精神に吾々日本人が立つて心の中にかくれてゐる日本人の眞の精神を呼返さなければならぬと思ふのであります。

近頃は少し變つて來た

しかし最近は却々さう云ふ人ばかり居りませぬ。先年アメリカの觀光船が横濱に入つた時、デツキの上から或る金持が、下に居つた日本人、ルンペンか或は波止場人足かわかりませんが、上から金を投げてやると——是は外國に行くと、よく水際でやつて居る事でありますが——日本人もそれを爭つて拾つたのであります。其の光景を寫眞に撮して行つた、

と云ふ話があります。それは本心ではなかつたのでありませうけれども、今日はそんなやうな傾向さへ日本人の間に現はれて居るのであります。これでは尊敬を受けると云ふよりも、むしろ侮辱を受けるのが當然であります。是は吾々日本人は大いに反省しなければならぬ點ではないかと思ひます。

傳統を尊べ

最近、吾々が非常に自由な、放縦な生活を續けて來ましたので、其の筋道を考へずに外國の物ならば何でも良いと云つた風になり、洋服を着るにしても何でも構はない、是が外國人から笑はれる所以である。吾々はさう深く感じないが外國人は斯う言つて居ります。物には一つの傳統もあれば、それに對する一つの歴史もあるのである。それを無視しては物は形をなさない、意味をなさない。日本人はあれ程に歴史を尊重すると言ひながら、こんな間違をして居る。其の一例として、羽織の話をよくする。紋付

の羽織、五つ紋付、三つ紋付、一つ紋付、之を今のやうな理窟で五つ紋付だからといつて、尻に一つ付けて、背中に一つ付けて、袖に一つ付ける。　或は胸の所に、ずつと五つ並べても、それでも、五つ紋付であるから構はないか。　假に外人が其の所ならざる尻に一つ、前に一つ胸に一つと云ふやうに、五つ紋を付けたら日本人は笑ひませぬか。　斯う云ふ質問を出したら、日本人はそれを見て笑ふ所ではない、それは氣狂ひだ、それでは紋付羽織の意義をなさない。　それぢや結婚式や葬式には勿論、總ての儀式にも出られないと申しませう。

日本人には日本人の道

日本には日本の習はしがあり、同樣に外國にも外國の習はしがあるのであります。　日本人は洋服であれば何でも宜い。　外國の物ならば何でも宜いと言つてちぐはぐにやつて居ります。　恰度西洋人の眼から見ましたならば、お尻や肩先に紋をくつつけ

てそれで紋付羽織の積りで着てゐると同じやうな者であります。自然日本人を西洋人が侮るのも當り前ではないか。物には組織があり、秩序があるのでありますから、五つ紋付はチヤンと紋が付くべき所に付いて居なければ、紋付の値打がないと云ふことを、日本人は考へないのかと云ふことを語つたのであります。

現代に於ける吾々同胞の間の總ての流れを見て居りますると總てが五つ紋付の紋散らしの羽織を着て何が是で何所が悪いのだ、五つ紋が付いて居るではないか、と言つて結婚式の時でも葬式の時でも割込んで行くと云ふ風ではないでせうか。これは吾々の深く考へなければならぬ所である。日本人には日本人の道がある、筋があるとすれば、理窟はどうであらう共、據つて以て、初めて意義をなすのであつて、世間の信用も出來、列國の尊敬も得られるのであります。

時局に處するにはこれあるのみ

其の他考へ來りますれば、吾々は日本人として、日本國民として進まなければならないと信ずる道あるに拘らず、吾々の今やつて居ることに於ては、只今申述べたやうに、洵に冷汗をかくことが多々あるのである。之を一掃して本然の日本人に立歸らなければ此の時局に如何に努力致しましても、正しい畏敬の裡に隆々として日本の存在を世界に認めしめ、日本道の崇高さを世界に十分に認識せしめて、世界雄邦の一として、列國に模範たる國家として、天壤無窮に吾々の使命を果すことが出來ないと信ずるのであります。吾々の反省すべき途は多々ありませうが、どうぞ是等の點を十分反省して戴きたいのであります。時局に處する道は是一つであります。

危機を孕む太平洋

滿洲事變は幸ひにして順調に進みましたもの丶、

今後の日本人の決心の如何によつてどう變化するかわからぬのであります經濟會議、安全保障、不戰不侵條約等、幾多のものが各方面に議せられて居りますが、是は軈て、一つの隙のある所に向つて必ず其の流れは深刻に注がれて來るのである。　明日の日本の運命は果して安心をして迎へ得るや否や、と云ふことは極めて懸念せられるものがあります。　滿洲問題が順調に進んだとは言へ、一寸の隙でもあり、一寸の歩調の亂れでもあつたならば、其の間に乘じて來る國際政局の總ての脅威迫害と云ふものは、決して安心をすべき情勢に進んで來ないだらうと考へられるのであります。

此の際に於て、吾々が來るべき將來を判斷致して見ますならば、少くともこゝ兩三年、就中千九百三十五年、六年の前後、ロンドン條約の改訂期、或は國際聯盟に最後の暇を告げる時期が來た時、軍縮會議の結果、殊に東洋に及ぶべき所の影響、隣邦、友邦、たるべき支那との間の握手、是が如何に進展をするか、北方ソ

ヴィエツト聯邦、卽ち舊ロシヤと日本との間に於ける和親、滿洲國の問題を動機と致しまして如何に動いて來るか、只今親善の方向を辿つて居りますが、太平洋の波、必ずしも靜なりとは考へられない。

こゝ兩三年が最も大事な時

ロンドン條約の一つを考へて見ても、吾々は寒心に堪へないのである。嘗て同盟國であつた英國の最近に於ける吾々同胞の血を沸かすが如き、甚だ遺憾なる處置に對して、吾々は笑つて之に感謝し得ざる情勢にある。其の他の總てを眺めて見ましても、是等のものが綜合せられて東亞の天地、滿洲問題がまだ一つの懸案として殘つて居ります。今日、是等に依て吾々國民は如何なる事態に押進められるであらうか、之を考へて見ますると、こゝ兩三年、今年は千九百三十四年であるが、昭和十年十一年、是は非常に大事な年であります。

結束して日本精神の顯現に

是迄に吾々が何處までも日本人としての自覺を以て只今申述べた幾多の缺陷を打拂ひ打勝つて、小さいながらも、假令金がないと申せ、貧乏と假に名付けられませうとも、此の日本と云ふものを、實際の將來に現はして行く、所謂具現、顯現をして行くと云ふことに向つて、此の兩三年の間に十分に、吾々が自覺もし、實際に之を實施して行くと云ふことに至らざれば其の時を眼前に迎へて、臍を嚙んでも、最早及ばぬのであります。此の崇高なる理想を持つて居る所の吾々民族、此の萬邦無比の國體を有つ所の我日本國、諸君はどうぞ、神國日本を未來永劫に伸展せしむるといふ大理想を實現すべき使命を有つて居る吾々であると深く信ぜられて、之を實社會の上に現はして行くと云ふことに、吾々同胞は結束して行かなければならぬと思ふのであります。

同胞の結束を荒木は御願する

日本に今日現はれて居る所の文化今日流れて居る所の理想、それを通じて見た日本の國體、日本の國家、日本の民族は、正に吾々も亦學ぶべきものである と云ふ考へを世界をして起さしめるのが、此の難局打開の唯一無二の道であると信じますので、彼の小さな小乘的のことは其の後に譲りまして、どうぞ此の點に付ては種々な――不平もありませう、不合理もありませうが、どうぞ同胞相率ゐ同胞相助けて行かれるやう、お願ひする次第であります。些々たるお互の間の問題は打捨てゝ、朗かな神國日本の將來を打建てゝ、國際間に之を認識せしめて行くと云ふ大きな目的、目標、指導原理、指導精神に向つて、相率ゐて行つて下さらんことを切に願はざるを得ないのであります。

日本人の道を現はせ

私は斯くすることに依つて必ず打開の道が開かれて來ると存じます。具體的に申しますれば或は經濟問題もありませう。教育問題もありませう。軍備の問題もありませうが、將來各種の問題、各種の機構の問題もありませうが、此の根本に依てあなた方がお考へ下さるならば、其の何れなりとも私は結構であると思ふ。茲で爭ふ必要はないと思ふ。皇

室を戴く日本、日本道を戴く日本の國始まつて以來の道を行くべきである。若し是が日本に於て行はれなかつたならば、吾人の屍を越えて何處かの國の者がやつて來るかも知れない。けれども吾々日本人は七度生れて彼等を此の日本道に依つて薫化してやり、彼等を必ず吾々の日本道といふものゝ下に克服してやらう、斯ういふやうな考へを以つて今日からお進み願ひたい。其の途中の道に付てはあなた方の中にも色々御議論もあり多少相違もありませ

うが、私は敢てそれに付て彼此れ言はない。此の時局打開の唯一の道として、只今申述べた日本人としての道を現はして行かれるやう希望を致します。

青年の重き使命

特に前途春秋に富まれ、多くの責任と、多くの仕事を有つて居られ、皇室を扶翼し奉り、皇謨を翼賛し奉つて、眞の文化、眞の日本の道に基く所の平和を齎すべき重大なる責任を有せられる諸君、冀はくば此の

道に依て、今後二箇年、非常時として困難はありませうがお進み願たい。吾々は軍務に服しまして、軍務の上に於て、必ず此の方面に向つて、一歩々々進んで行くと云ふ事をば諸君の前に誓ふものであります。是に於きまして日本の軍隊と云ふものは如何なるものであるか、戦争と云ふものは如何なるものであるか、と云ふことの上から吾々の同胞一般に對する所の只今の考へと共に相並んで只今の理想を實現せしめたいと考へて居ります。甚だ理想

として如何にも頼りのないお話のやうに思はれるかも知れませぬが是が、基礎でありまして、是れ無くして其の他のことは一つの道に歸一せざる無駄な仕事になると存じます。どうぞ此の一點に向つて東亞の基礎は此處にあると云ふことをお考へ願ひたいと思ひます。時局に對して尚ほ申し述べたい點も縷々ありますが、他日又機會を捉へて申上げることに致したいと思ひます。どうぞ此の根本の一點に付て、諸君の今後進まれる上に付て御參考になると云ふことになれば、私の望外の幸ひと存じます。

佐賀高等學校教授　大上茂喬著

特價 ¥2.00　　郵稅 .14

淡々明月の如き著者の眼底に映つた歐米人の日常生活の犀利辛辣な解剖のメスは、蓋し一九三五・六年の國際危機に直面する全國民に、歐米人に對する深き認識を與へずには措かない。著者の深刻な筆致を通じて無遠慮に表現したこの見聞記こそ、次々に展開して行く百五十餘面の挿入寫眞を通じて、日本人に不可解な彼地の社會生活を手に取る樣に物語つて、息をもつかせず讀了せしめる。

〔非常時の認識と青年の覺悟〕

電報注文略號〔ラア〕

昭和八年十二月二十五日　印刷
昭和九年一月一日　發行

定價五拾錢

著作者　楠間亀楠　東京市小石川區水道端二ノ一〇
發行者

印刷者　山本禎男　東京市牛込區山吹町一九八

發行所　文明社
東京市小石川水道端二ノ一〇
振替東京一七〇一六番
電話大塚五七一七番

電報注文略號【マツ】

松岡洋右著

非常時に際し

全國民に愬ふ

定價五拾錢　送料四錢

起つた、起つた、松岡は起つた！

半歳の沈默を破つて我等の松岡は起つた。
ジュネーブのヒーローが、一介無冠の野人に歸つて危急に喘ぐ九千萬同胞に愬へるの時が來た。
その熱烈な獅子吼こそ實に本書なのだ!!
聽け！　この血涙の叫び！

觸れよこの熱誠の魂！

本書を讀んで起たざる者は

眞の日本人に非ず